

所 属 鳥取県漁業協同組合（淀江支所）

氏 名 もとき あきら
元木 輝 （36歳）

船 名 みやびまる
雅 丸 4.8トン

漁業種類 釣り、潜水



～“淀江がいな鱈”を特級ブランドへ～

大学卒業後、青年海外協力隊としてフィリピンへ行き、イカの一本釣りに関する技術指導を行っていた元木さん。その時の経験が人生を一転させるキッカケとなり、「一度しかない人生、自分が好きな事をしよう」と思い立ったそうだ。「好きな漁業を徹底して行いたい」という熱意は強く、サワラへのそれは特に強い。

冬に水揚げされる大型サイズの寒サワラを、船上で活締め等の高鮮度処理し、漁業職員が目利きする。そうして選ばれた極上のサワラにブランドタグをつけて、新鮮な状態で出荷している“JF 淀江釣漁研究会”に所属しており、言わばサワラを取り扱うプロ集団の1人として活躍している。「鳥取県にはブランド水産物が色々あるけれど、“淀江がいな鱈”は他のどの水産物にも負けない」と胸を張って話してくれた。その眼差しは、元木さんの名前のおり輝いているように見えた。

～三線と家族～

フィリピンにいた時に暇つぶしで始めた沖縄の弦楽器“三線”。今でもよく弾くそうで、家族の前で弾きながら歌うこともあるそうだ。時に家族から「うるさい」と言われることもあるそうだが、その言葉からは賑やかな元木家が想像できた。

（文責：門脇 慧史）